

研究課題 (テーマ)	幼児をもつ母親における就業状況別の精神的健康とその関連要因		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	助教	浜多 美奈子
研究結果の概要			
<p>本研究は、幼児を育てる母親を対象に、就業状況別の精神的健康の実態とその関連要因を明らかにすることを目的として実施した。質問紙調査により、就業状況、育児・家事ストレス、心のゆとり、経済状況、家族および職場からのサポート状況などを調査し、精神的健康は WHO Subjective Well-being Inventory (SUBI) を用いて評価した。</p> <p>分析の結果、精神的健康度は疲労度と有意な負の関連を示し、疲労が強いほど精神的健康が低いことが明らかになった。また、就業している母親では、週あたりの就労時間が長いほど精神的健康度が高い傾向が認められた。一方、精神的疲労度は育児ストレス・家事ストレスの高さや、心理的・経済的余裕の低さと関連していた。これらの結果から、母親の疲労度は育児・家事負担や心理的余裕、経済状況と密接に関連していることが示された。</p> <p>サポート状況別の比較では、実親や姉妹・兄弟からの支援を受けている母親は精神的健康度が高く、職場からの支援を受けている母親では疲労度が低いことが示された。</p> <p>これらの結果から、母親の精神的健康は単なる就業の有無ではなく、家庭内外の負担状況や心理的・経済的余裕、家族や職場からのサポートと密接に関連していることが示された。</p> <p>この結果について、国際学会 (29th East Asian Forum of Nursing Scholars2026(EAFONS)) において研究成果を発表した。</p>			
今後の展開			
<p>今後は、就業の有無にとどまらず、就業形態や労働時間、働き方の柔軟性、家庭内での役割分担といった、より詳細なライフスタイル要因に着目した研究へと発展させていく予定である。</p> <p>さらに、就業状況にかかわらず活用可能な母親の精神的健康支援の在り方について、職場・家庭・地域が連携した支援体制の構築を視野に入れた実践的研究を進め、母親の心身の健康維持とキャリア継続を支えるエビデンスの蓄積を目指す。</p>			